

月刊 利根日石新聞

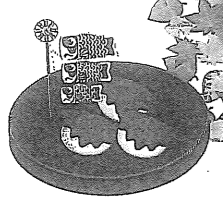
第 000200号

発行

利根日石株式会社 TEL0278-241635

格監管理課 FAX0278-237980

5月5日
こどもの日



May 5月

5月10日
母の日



桜の花は奇に咲いて、一週間も
しほいであつといひ間に散つてしまひます。
ですから日本人は昔から花見で盛り上げ
観賞も味わい深く、又感傷的になる事
すあります。種類は、500~600もあります
桜の木は8割はソメイヨシノです。奈良の御山に
咲く桜を江戸の染井村の值木屋が売り出した

ここから名付けられた様です。地元の名所はいくつかあります。沼田公園の御殿桜は、
2代に渡り市民を喜ばせて、発知の彼岸桜や上発知の桜は少し遅れて満開となります。
片品村の天皇桜は、オオヤマザクラといひ、開花は更に遅れ一ヶ月近く遅れます。
終りに紹介するのは、総元2000年記念植樹で植えられた利根リ治いの
桜並木です。年々美しく咲き誇る様になりましたが、あと数年すると見事な桜並木に
なると思ひます。

針山の天皇桜
針山の天皇桜は、群馬県片品村の針山地区に位置し、推
定樹齢300年以上のオオヤマザクラです。この桜は、幹
回り約6メートル、枝幅約18メートルに達し、堂々とし
た姿が印象的です。根元には天王神様がまつられてお
り、この名前が由来となっています。見頃は例年4月上
旬から5月上旬で、夜間にはライトアップが行われ、幻
想的な雰囲気を楽しむことができます。



あなたは、ペット飼うなら犬派猫派?

私の家族(夫婦)は、私犬派で妻猫派です。

私は決して、猫が嫌いでは、ありません、

むしろかわいいと思ひますが、家の中で飼うとガリガリやらトイレやら小さなすき間に入り

ホコリまみれになるなど目が離せないと思ひます。

特にガリガリは、ちゃんとしつけすれば大丈夫でしょうか?詳しい方教えて下さい。

余談ですが何年か前に店で迷子猫を保護し何日か家に連れて帰り世話をしました。

妻は、膝の上に子猫をのせあやすとゴロゴロ喉をならして甘えていました、それを見たとき

子猫に少しジェラシーを感じました、私には、シャーしたのに。

犬もペットショップで見るとかわいいですが、結構ない値段段。

外で飼いたいのですが近頃は、犬も家の中で飼うのが普通

みたいですね。それと毎日の散歩、う〜ん毎日続くだろうか...

はたしてわが家にペットを飼う日が来るのであろうか。



備蓄原油の活用と今後の見通し

新緑が目鮮やかな季節となりました。本来であれば春の行楽シーズンですが、エネルギー供給の現場では、平時と異なる緊迫した状態が続いています。

政府が発表した「国家・民間備蓄合わせて254日分」という数字は一見、十分な量に見えました。(備蓄量としては世界一です)しかし、「254日分」という数字には落とし穴があります。

1970年代のオイルショックを教訓に始まった国家備蓄ですが、その中には半世紀近く経った原油も含まれています。原油は長期間保存されると、酸化や成分の沈殿、物性の変化(ヘビー化)が進みます。現在の精製技術をもってしても、古い原油からガソリンや軽油といった汎用製品を最新の原油と同じ歩留まり(収率)で取り出すことは困難です。

また、備蓄原油を精製装置に投入する際にエンジニアが最も警戒するのが装置のトラブルです。せっかく備蓄原油を切り崩しても、どこか原因で装置が壊れてしまつては本末転倒です。そうしたトラブルを回避すべく製油所のエンジニアは日々、大変な思いで備蓄原油の受け入れ作業に奔走しています。以下はその代表的なもの(首の記憶を頼りに)を覗きましたか、これらの事情を考えると現実的には原油の量だけで「254日分」とは単純に言えないと思ひます。

① データと現実の乖離... 原油には「アッセイ」と呼ばれる成分分析表がありますが、古い備蓄原油は半世紀の間に酸化やヘビー化が進み、当時のデータが通用しません。現場では、いわば「古びた設計図」を頼りに、現物の性状を見極めながら慎重に装置を稼働させています。

② 脱塩装置への負荷... 原油に含まれる塩分を取り除く「脱塩装置」は全ての精製工程の最初の入り口です。古い原油は水分や不純物と結びつき、分離しにくい乳化しやすく、これが装置の限界を超えると製油所全体の停止を招くリスクがあります。

③ スラッジとインターフェイス... タンクの底に溜まる泥状の堆積物「スラッジ」や、原油との中間層「インターフェイス」を吸い込むと、高価な触媒を数日で失活(ダメにする)してしまいます。タンクの残量が減る程、このリスクは高まります。

現在、政府は米国産などの代替原油の確保に奔走しており、直ちに私たちの生活が制限される状況ではありません。しかし、今後の中東情勢の行方は誰にも予想できません。韓国など東南アジア近隣諸国では既に車のナンバー制による走行制限などの抑制策が実施されています。日本でも備蓄原油の「質」と「精製能力」の限界を考慮すれば、事態が長期化した場合にはどこかのタイミングで政策的な抑制策が出るかも知れません。

一方で私たち日々にする製品の多くは実は「石油」という源から枝分かれして作られています。精製工程で抽出されるナフサ(粗製ガソリン)を原料としたエチレンやプロピレンといった基礎化学品は、いわば社会経済の「細胞」です。

住まい: 塗料(溶剤)、塩ビパイプ、断熱材、これらは石油を原料としています。多くはプラスチック製です。石油の供給不安は、巡り巡って医療現場という最もデリケートな領域にも相次いでいます。
医療: 注射器、点滴、カテーテルなど。一部はプラスチック製です。石油の供給不安は、巡り巡って医療現場という最もデリケートな領域にも相次いでいます。
食品: 食卓まで安全に新鮮なまま届ける包装パッケージや保存容器。一部の食品メーカーでは特定のフィルムが確保できず、商品のラインナップを絞り込む動きが出ています。

燃料の供給不安は、実は氷山の一角に過ぎません。石油の給配網に負荷がかかるという事は私たちの衣食住すべてにおいて「当たり前」に手に入っていたものが、少しずつ手に入りにくくなる。それは高価になるということに繋がります。

今後、ご自宅の修繕やリフォームなどご検討の際は、いつもより余裕を持ったスケジュールを立てて頂くのが賢明かも知れません。